資料１－１

滋賀県文化審議会評価部会第１３回会議の概要

１．開催日時

平成 29 年 11 月 10 日（金）10:00～12:00　　滋賀県庁本館４Ａ会議室

２．議　　題

(1) 平成２８年度の滋賀県文化振興基本方針(第２次)評価指標の実績について
(2) 平成２９年度における個別事業評価について
(3) 報告事項
　滋賀県文化審議会第１８回会議の概要について
　東京 2020 大会の文化プログラムについて
(4) その他

３．主な意見等

議題（1）平成２８年度の滋賀県文化振興基本方針（第２次）評価指標の実績について

・生活文化という、数年間議論してきた問題をどう取り組むかを考えていただきたい。
・情報が溢れている時代なので、情報の伝わり方をしっかり分析しながらやらないと忘れられるのではないかと懸念しています。
・若者で芸術文化に関わる人が少ないのは、ずっと気になっています。
・文化創作活動を行ったことのある県民の割合における調査項目にヒップホップダンスなども入れられないか。
・評価全体のことに関して言うと、数値目標だけで、施策の目的が達成できたかどうかを計るのではなく、数値化できないものも当然あると思いますので、それらも含めてこの施策の目標を達成できたかどうか評価した方が良いと思います。
・文化のサイトの閲覧数に関して、圧倒的にタブレットとスマートフォンを使用する人がいので、そういった対応が求められる。
・文化が延べ観光入込客数に間接的にでも影響を与えることが事実だということは、評価指標データで見ることができる。
・文化財に関しましては、登録文化財を増やすことだけが目的ではなく、その文化財を活用した実施事業に注目している。
・アートマネジメント研修については、ホール担当者の専門的な研修だけでなく、各市町の文化行政担当課に対して文化政策として、どういうミッションを打つべきなのか等の研修が必要。
・文化プログラム実施件数については、県が率先して実施しないといけない。
・伝わらないと何も始まらないという考え方があるので、京都と奈良との違いを、はっきり打ち出すべきだと思います。

議題(2) 平成２９年度における個別事業評価について

・各委員の日程調整のうえ、平成 29 年 11 月 23 日のアール・ブリュットによる「ひと・まち・空間」形成事業、平成 29 年 12 月 3 日の滋賀県次世代育成ユースシアター事業音楽劇「美味しいメロディ改」で決定。

議題(3) 報告事項

（事務局から８月２日に開催した「滋賀県文化審議会第１８回会議」の概要を報告）

（吉本委員から「東京 2020 大会の文化プログラムについて」報告　イギリスロンドン大会での文化プログラムの取組を動画で紹介）

・イギリスの場合、地方行政の仕組みが日本と違います。市が主催するというよりも、スコットランドには、クリエイティブスコットランドという、アーツカウンシルに相当する組織があって、そこの補助金も出ており、自分たちでお金を集めている。
・ベネズエラからやってきた、システマなどが子ども達への音楽教育をミッションにしており、3000 人の町でやっていることと重なって、彼らの教育に参加するということになったと思います。色んな事をやっては実現している。
・システマは、ベネズエラが発祥の地です。ベネズエラは、子どもたちが貧困で犯罪を犯したり社会問題になっていて、それをどうにかしたいということで、ある種の社会活動的な音楽活動を行っている。本格的な音楽家を育成するためにやっているわけじゃないが、凄いアーティストが出てきている。

以上